

2024年(R6) 年頭のあいさつ

北海道山岳連盟会長 石井昭彦



あけましておめでとうございます。

令和5年5月からコロナ対応が5類に変更され私たちの活動にも自由が戻ってきたように思います。

去年は、登攀研修会、沢研修会の実施、特に、旭川山岳会と美瑛山岳会に主管いただき開催した第35回全道交流登山会は十勝岳を始め5コースに分かれて19団体136名の参加をいただき全道の山仲間と交流することが出来ました。旭川山岳会、美瑛山岳会の皆さんに改めてお礼申し上げます。

また、赤岩峠のトイレ建替のために皆さんにご協力いただき、全道から1910筆の署名が集まりました。昨年7月に後志総合振興局に提出したところでした。来年度に建替の予算が認められれば、実施設計を行い翌年度以降に工事に着工と聞いておりますことをご報告させていただきます。

一昨年春から日高研修所の閉所により、研修の場をネイパル深川、ネイパル足寄、ネイパル砂川、そしてネイパル森に替えて登山総合研修会を行いました。新年度は国立日高青少年自然の家を利用して開催する予定です。多くの会員の参加をお待ちしています。

コロナ禍のため延期になった特別国民体育大会（燃ゆる感動かごしま国体）では、どの種別でも入賞することが出来ず、全国との差が開いてしまったなど感じています。一方で12月3日に美瑛市体育センターに道内随一の規模となる新しいリード壁がオープンしました。グレードが5.10a～5.14bまでのルートが20数本あります。この壁で練習して強い選手が育ち、世界で活躍する選手が出てくれることを期待しています。

常任理事会は隔月で開催しています。コロナ禍によりWeb併用で開催していましたが、遠方の常任理事の方も居られるので、今後もWeb併用で会議を開催して参ります。会議に間に合わない議案や急ぎの案件は常任理事会のメーリングにて承認を得るようにしています。会員の皆様に研修会や講習会の情報が滞ること無いように取り組んで参ります。

これから冬本番を迎えますが、バックカントリーなどでの山岳遭難が予想されます。安全に配慮した登山計画と装備を持って活動してください。

終わりになりますが、会員の皆様とご家族のご健勝を祈念して年頭のあいさつとします。

行事・各委員会事業報告

自然保護指導員研修 7/29-30 白金野営場・美瑛富士

自然保護指導員研修に参加して … 個人会員 K・S

この度、道岳連会員入会后初めての自然保護行事の参加でした。事前の送付資料や当日の配布資料に目を通すと、多くの各山岳連盟他団体が、点検パトロール実施に携わっていることを知りました。

参加初日は、副委員長の内藤さんから「十勝岳連峰トイレ事情」や前年度の点検パトロール実施報告書から、年々状況は良くなっているようですが、そこから読み取れる問題もありと説明を聞くと安心はできず、登山者皆で意識を高める啓蒙をする必要がありそうです。

続けて清掃実施の作業等を教わり、夕食ではお酒も加わり、雑談含め楽しい時間を過ごせました。

参加二日目、美瑛富士周辺は昼から雨予報でしたので、準備して「美瑛富士登山口」5時出発となりました。歩き始めから曇天で蒸し暑く先が思いやられると思ったのですが、小雨も短時間だけで、その後高度を上げると涼しくも感じてきました。天然庭園のイソツツジは終わり、その後開けた場所には、花のチングルマの群と片方に綿毛、近くにはアオノツガザクラ、エゾコザクラ等が少し咲き残っていた。ナキウサギの鳴き声があちらこちらと聞こえ、首をふりふり探すも姿を見れたのは三度だけで残念。

9時過ぎ避難小屋に着く頃は風も強くなって、早速班別に作業に入りました。掃き掃除、拭き掃除、ゴミ回収と、終わってみるとゴミも少なく周辺での排泄跡も発見されず終了しました。休憩を挟みいざ美瑛富士への予定でしたが、雲がかかった頂上部と更なる強風を考え10時過ぎに避難小屋より下山としました。その後一瞬日差しもありましたが、天候回復はありませんでした。その後濡れる雨にも当らず、13時過ぎ登山口に戻れました。

今、改めて登山者は自然から素晴らしい経験を提供してもらっていると同時に、自然環境への影響も留意しないといけないと思いました。この度のトイレ問題と共に、登山道や休憩地での不適切な行動で植物を踏みつぶしてはいけない等をT常任委員から教わりました。将来の登山者にも美しい自然環境を残してやりたいです。

この度、飲食等や野外設営、講義の準備をして頂いたM委員長他、グループリーダーTさん。

皆さんには大変お世話になりました。

下山後の駐車場で頂いた冷えたスイカ最高でした！！



美瑛富士避難小屋前で集合写真

第22回スポーツクライミング北海道選手権大会 学校法人北海道科学大学創立100周年記念大会

本大会は、旧美唄工業高等学校の旧体育館を会場として第1回目が開催されて以来、途中コロナ禍で一度だけ中止になったが、23年間、国体北海道ブロック予選会と並ぶ全道規模の公式大会として開催されてきた。

今年は10年振りにリード・ボルダー兩種目が行われ、それぞれの種目における北海道のナンバーワンを決める大会となった。また、リード競技は、第14回全国高等学校選抜クライミング選手権大北海道予選会と第64回札幌市民スポーツ大会クライミングコンペを兼ねて行われ、高校生については全国大会代表選手が選抜され、札幌市民は市民大会としての順位が付けられた。

そして、第11回大会以来10年以上にわたって会場として施設借用にご協力いただいている学校法人北海道科学大学が来年創立100周年を迎えるにあたり、それを記念する大会として開催された。

今大会を振り返って、特徴的な点は、少年選手がオープンで出場している成年男子に全くひけをとってないことで、これは北海道選手権大会が始まった初期のころでは考えられない事である。

かつては成年選手と少年選手の力量には圧倒的な差があったものだが、今は競技開始年齢も早く、各クライミングジムではキッズ・スクールなどを実施して技術的な指導もされるようになってきているので、全国的に少年選手のレベルは飛躍的に向上し、成年選手との差がなくなってきている。

もう一つの特徴は、熱心な指導者がいる遠軽高校は別として、数年前まで参加者はほぼ札幌圏の選手で占められていたが、今大会では函館、釧路、帯広、旭川、倶知安、羽幌など、全道各地から選手が参加していることだ。首都圏や関西圏に比べると、北海道はまだまだジムの数も少なく競技者も偏在的で、遠く離れた土地に住む選手同士が切磋琢磨する機会は少なかったが、これは明るい兆しである。特にキッズカテゴリーに全道各地から才能を感じさせる選手が多数参加してくれたことは、昨今の国民体育大会で苦戦している北海道のスポーツクライミングにとって、近い将来への希望を感じさせるものであった。

今回も多くの方々にスタッフとして大会運営や審判業務にご協力をいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。（北海道山岳連盟競技委員会）



大会入賞者

大会の概要と成績結果等について

期日・会場

- (1) リード競技 令和5年10月29日(日) 北海道科学大学
(2) ボルダー競技 令和5年11月12日(日) グラビティリサーチ札幌

参加者数

- (1) リード競技
- | | | | |
|--------|-----|--------|-----|
| オープン男子 | 3名 | オープン女子 | 1名 |
| ジュニア男子 | 17名 | ジュニア女子 | 7名 |
| キッズA | 9名 | キッズB | 4名 |
| ビギナー | 6名 | 選手合計 | 47名 |
- 競技役員 26名
- (2) ボルダー競技
- (1) リード競技
- | | | | |
|--------|-----|--------|-----|
| オープン男子 | 4名 | オープン女子 | 3名 |
| ジュニア男子 | 22名 | ジュニア女子 | 6名 |
| キッズA | 13名 | キッズB | 8名 |
| ビギナー | 3名 | 選手合計 | 59名 |
- 競技役員 222名

入賞者

(リード競技)

オープン男子	1位	丸尾 高士朗	2位	岸本 武蔵	3位	堀本 睦
オープン女子	1位	根上 愛香				
ジュニア男子	1位	荒川 翔哉	2位	田中 岳	3位	工藤 賢悟
ジュニア女子	1位	酒井 雪羽	2位	清水 陽菜乃	3位	村上 和奏
キッズA	1位	酒井 翔羽	2位	長部 丈	3位	鹿俣 来莉
キッズB	1位	大西 真唯	2位	川村 奈幹	3位	村田 葉月
ビギナー	1位	稲野 響	2位	川村 一喜	3位	山本 泰慈

北海道山岳連盟アルパインクライミング

レベルアップ研修会 ④ 10/14 小樽赤岩

小樽赤岩 東大壁：佐藤ルート、小林ルート

令和5年10月14日 リーダー石井、参加者N・M、O・T、K・H

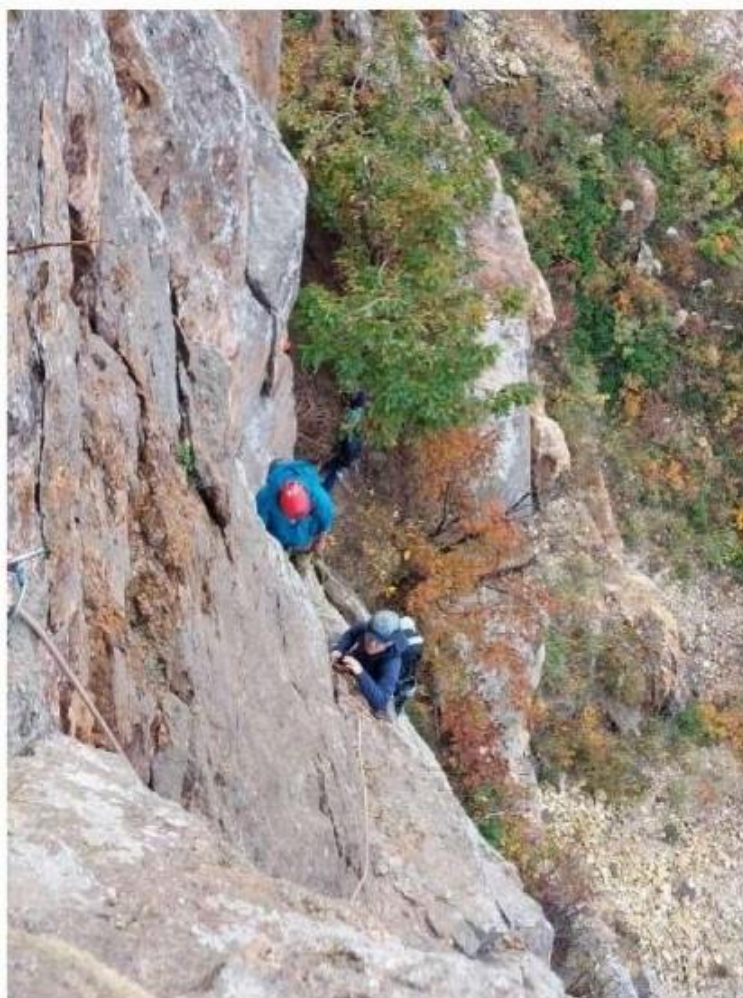
行動概要 8:00 赤岩峠駐車場～東大壁～14:00 赤岩峠駐車場

行動記録 4年ほど前から始めたクライミング。少しずつ基礎的なところから積み上げてきましたが、自分が自信を持ってリードできるグレードは4級プラス程度まででした。今回のレベルアップ研修会でいつかは登りたいと思っていた東大壁について臨むチャンスをいただきました。

事前に調べた時には懸垂下降で取付きに降りるとあったので、そのつもりでいたのですが、トリコニー岩のすぐ東側の林道から取付きまでの下り道でアプローチすることになり、いきなり大に汗をかきながらの下りとなりました。荷物は軽いのにやたらと足取りが重く、緊張と興奮のせいか

心拍数もなぜか上がりすぎてしまい、汗がぼたぼた滴り取付きにつく頃には吐き気まで出てくる始末、今日は体調が悪いのかと思いましたが、せっかく今日のためにいろいろ準備もしたし、登れるだけ登ろうと思いつつ準備を開始、取付きで待たせてしまった石井さんはすっかり準備ができて私が

取付きに着いた頃には登り始めており、私は石井さんがダブルロープで2名を引き上げた後にバックロープで一番後から上がる事となりました。



佐藤ルート 1P

東大壁佐藤ルート。取付きに立って壁を見上げ、これが噂の中央バンドかと感慨深い。他の壁よりも垂直に立ち上がった壁で、岩質はやはり東側特有の崩れやすい安山岩の塊でブツブツと粒状の岩肌だったり、溶岩が冷え入るときにできたのか、大小様々なクラックやフレックがありました。バンド・テラス状の地形には大抵細かな石が溜まっており、踏むと落石になるので注意が必要です。

1p目5級一、17m。石井さんリード。まず大きな岩の上に立ってから。そっと壁に移ります。立ち上がり左にクラックがありそこを直上してやっと1ピン目。錆びたハーケンです。左のクラックは左刺しになるのですが、クラックがフレック状に近いのでホールドとしては余り拾えず。プロテクションを取る程度、そのまま少し右に動きながらもほぼ直上ですフェース部分もよく見ると立ち込めるスタンスがあり、ホールドもある程度取れるものがきちんとあります。これまで身につけてきた足を上げるクライミングの練習が活きて、5級一ではありますが危なげなムーブを出すことなく安全に登れました。ガレに乗り越すところが危うい箇所、掴める草もなく動く岩だらけで落石を起こしてしまうので無理にマントルも返せません。慎重にガレに乗り込み八の字クラック取り付けにある支点到り着きました。

2P目5級一、15m。石井さんリード。八の字クラックです。左のクラックから立ちこむのですが、レイバックをしたりガストンしたり面白いクラックです。右には優しいフレック状のクラックがあるのですが、左のクラックが楽しかったです。細かく拾い

ながら上部はクラック同士が近づきチムニー状になります。ハンドジャムもよく効くサイズでした。クラックの練習が活かして楽しかったです。

3 P目4級25m。石井さんリード。1 P 2 Pと比べるとやや傾斜が緩くなりますが、長めのルートでクラックも凹角になり少し難儀しましたが、ここもやはりスタンスがどこかしらにあるので、「やはり4級」という感触を持って登りました。

終了点は動画でも見ていた懸垂開始点でもあり、3 pとは言え清々しい気持ちでトップアウトとなりました。約2時間の登りでした。

そこから今度は懸垂下降で小林ルートの取付きへ。60mロープを少し切ったロープ2本でギリギリ1ピッチで届きましたので、60mで懸垂が良いかと思いますが、通常は50mロープで1回ピッチを切って懸垂することが多いようです。懸垂して自然と降りたところがほぼ小林ルートの取付きとなります。(佐藤ルート取付きよりも海側になります。)

小林ルートは佐藤ルートより一段難しく5級・5級・3級の3 Pです。

1 P目5級17m、石井さんリード。取付きから少し左上しながら登る垂壁ですが細かいホールドがあり、スミアも効くのでなんとか登れました。テラスが小さいので2・3名立つといっばいです。

2 P目5級33m、石井さんリード。本来は33mなのでしょうが、小テラスでピッチを切りました。石井さんのお話ではここまでが1 Pでも良いとのことでしたが、最初は2 Pの距離が33mとは知らず「5級の割に簡単なピッチだったな。次はリードできそう」と思いました。甘かったです。後半はいよいよCクラックの核心部です。左足を大きくクラックに入れれば入れるほど安定します。背中、尻もびっちり側壁に擦りつけながらチムニー登りのようにずり上がりながら何とか右足をレヅジまで持ち上げますが、なかなか身体が上がらないこと・・・

それでも思ったよりも恐怖感なくスムーズに処理できました。何よりワイドクラックが楽しかったです。本日の目玉でした。

3 P目3級23m、石井さんリード。ここは先行者が上部で小さな石を難度も落とすので難しいルートなんだと思いながら登りました。実際登ってみるとスタンスには礫岩が堆積し、乗り込むと確実に落石です。ですので、スタンス限定というか落石しないように細心の注意を払い、石の乗ってないスタンスのみを選んで登ったので、体感的には4級以上に感じました。

上部にいけば行くほど落石を起こすので、このルートは先行パーティーが居るときには登ってはいけないと思いました。

すっかり本日は終了と思っていたところで、東チムニー岩で仕上げをすることとなりました。

右ダイレクトルート6級はフォローでも上部の被り部分が堪えられずローアダウンして貰いました。思ったよりもヨレており、気合いが入りませんでした。その後ジェールドルート4級をザックを背負って登り本日は終了。たくさんのカメムシと雪虫に悩まされましたが、怪我もなく目標だった東大壁を経験することができ、レベルアップすることができたと思います。

次回は佐藤ルートをリードできるように練習したいなと思いました。

(報告者 K・H)

**北海道山岳連盟アルパインクライミング
レベルアップ研修会 ⑤ 11/23 神居岩**

リーダー石井、参加者K・Y、N・M、O・T、K・H

行動概要 7:50 駐車スペース～8:30 神居岩クライミング～駐車スペース

行動記録

神居岩を初めて知ったのは、たまたま動画で斬鉄剣を見たとき。当時はアイスクライミングをちょっと経験した程度だったので「すごいルートがあるものだ」と憧れていた。後に石井さんがこのエリアの開拓者であることを知り、いつか行ってみたいと思っていたが、8月の時点でアルパインクライミング・レベルアップ研修会で神居岩に行くことを告げられ、この日のためにいろいろ準備してきた。赤岩でドライを経験し、インドアジムではドライルートでの練習、NACではインドアドライアックスで持久力をつけ、自宅ではサーキットトレーニングでアックスにぶら下がる時間を12分まで延ばしてきた（訓練はじめは2分が限界だったけど）。一番簡単で看板ルートでもあるカンナカムイM9はYoutubeの動画で登っている人のムーブを細部まで見ていた、特に核心部と思われる中間のルーフ乗り越しはルーフ下のクラック奥にアックスをかけたなら正面の足をしっかりあげ、左手でルーフ上のクラックまで伸ばして一気に足を上げて身体を倒しつつ左ヒールをかけて右手でアックスをショートに持ち替える。その後2手上げると左足を背部の壁に張って姿勢を整える。強く美しいムーブである。何度も動画を見てイメージを作ってきたが、これまでの外岩での経験と同じく実際の岩場を見たらその迫力に圧倒され、思い通りのムーブはできないのではないかと不安でもあった。

当日5時起床の予定が4時半に目が覚めてしまう。準備は前日にバッチリできているので、落ち着いてお湯を沸かし飲物を準備して出発。石井さんの車に便乗させていただき深川ICから神居岩へ。

アプローチは40分程の自転車道～軽い山道。ぬかるんでいる箇所が多く、アプローチから冬靴を履いて進む。パッと目の前に岩が広がり気分が昂ぶる。更に進むといよいよ憧れのミックルートが見えてきた。（氷はついてないけれど）岩場に着いて意外だったのは、これまでいろいろな岩場を見ていたせいか、ほぼ想定通りのサイズ、被り感だったこと、なんとなく「行けるかも」という気持ちが出てきた。すでに北稜クラブ、北大山岳部学生、北大ワングルOBの4人が取付いていた。カンナカムイにはトップロープが張ってあったので、相談して石井さんのロープに掛け替えクイックドロウなどはそのまま使わせていただくこととした。

1本目。登りやすい右側から歩いてアプローチして1ピン目まで。被ってはいないが明瞭なホールドもない出足にやや戸惑い、中間ルーフの真下まで極力パワーを使わないよう心がけながら登ろうとするが、いつもよりもアックスを握る手には力が入り、トップロープとはいえ水の滴る岩に恐怖心が湧き、ぎこちない動きで進む。2ピン目を過ぎた途中で石井さんから「左のクラックを使うんだよ」と言われ、なるべく左のクラックにアックスを入れながらホールドを探る。体感的にはアツと言うのだが、結構長い時間をかけて中間ルーフ下まで来たのでふくらはぎがパンプしていた。腕のレストはよくやるが、足のレストなんてしたことがない。それでも姿勢を替えつつふくらはぎをレストして中間部へ。なるべくクラック合流部の一番深いところに右アックスを差し込み、足を思い切って上げる。ルーフを見上げると予想以上にルーフの出口が遠い。手を伸ばしてルーフの出口のクラックに左アックスを差し込もうとするが、まだ左アックスが低いらしく届かない。何度か探ってなんとか左アックスのホールドに差し込むが、この時点で身体を起こすパワーが残っていなかった。テンションを張ってもらい下ろしてもらおう。1本目は無理をせず2本目にしっかりと全力で登ろうと考えていたので、多少余力を残してもったいない気もしたが焦らないことも重要と考え一度ロープを解く。

令和5年度登山総合研修会 11/4-5 佐原岳 ネイパル森

令和5（2023）11月4日（土）、5日（日）の一泊二日の日程でネイパル森と佐原岳西丸山を会場に令和5年度登山総合研修会を開催しました。参加は19人でした。

初日はスマホやPCを利用した地形図の作り方として、4人の講師による講義を受講しました。

講師は岩見沢の今野氏、斜里の滝澤氏、札幌の西嶋氏、登別の澤田が努め、国土地理院地図からPCでの地形図の作り方、ジオグラフィカとカシミールの連携による地形図の作り方の紹介がありました。

講義後参加者からの質疑応答があり「スマホやPCを使うといろんな方法で地形図を作ることができる」「国土地理院の地図を購入しなくなった。」との声がありました。

夕食後、滝澤講師による「ロープワーク」復習や搬送方法を1時間半かけて行ない、参加者は慣れないロープワークに悪戦格闘していました。

2日目の実技研修は、火山である事に留意し、ヘルメットを着用し、地形図とコンパス、スマホGPSを使い砂原岳西丸山まで往復し、初日の地図読みを実践しました。

参加者は進むべき方向やコンパスの角度調整、周辺の風景から現在地を確認するなど、手慣れた様子で研修会を修了しました。



滝澤講師のロープワーク研修

今後の道岳連各種事業予定

R5氷壁技術講習会（指導委員会）
令和6年1月6日～7日 錦糸の滝周辺

R5冬山登山講習会 Part 1（普及委員会）
令和6年2月3～4日 羊蹄山

山岳スキー指導員初中級山スキー研修会（指導委員会）
令和6年1月20日～21日 音江山 カムイスキーリンクス

R5冬期遭難対研修会（遭対委員会）
令和6年2月17日～18日 三段山・白銀荘

2023 JMSCAスポーツライミング部ブロック別研修会（競技委員会）
令和6年2月17日～18日 札幌エルプラザ

道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.99 令和6年1月5日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市厚別区厚別北1条4丁目1-4-206

発行責任者 石井 昭彦 編集担当(総務) 内藤 美佐雄